

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ウエル城北
（ユニット名）	1F. 2F共通
所在地 （県・市町村名）	静岡県静岡市
記入者名 （管理者）	佐藤八重子
記入日	平成 20 年 1 月 31 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	“あなたらしく笑顔いっぱい”をホームのモットーとして入居者が職員と共に笑い声の絶えない明るい雰囲気の中でその人らしい生活が後れるように支援している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内にモットーを掲示したり、カンファレンス等で話題に上げ話あっている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	手芸教室や夏祭りを開催し気軽に地域の人々がホームを訪れてくれる機会をつくっている。ホーム内の随所にモットーを掲げ、折に触れて話している。毎月刊行されるホーム便りにもモットーを掲載している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	手芸教室や夏祭りをきっかけに立ち寄ってくれる人が多くなりました。要らなくなった衣類を持ってきてくれたり、お花屋さんがどんぐりを持ってきてくれたり、隣の市民農園の人が野菜を持ってきてくれたりしている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	神社のお祭りやどんど焼き、老人会の催しに参加して交流している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在は特に行っていない。	○	管理者はキャラバンメイトの研修を受けている、認知症の講習会を開催していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を職員全員で行い、改めて意識しなおしたり、外部評価の結果を生かし改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの活動状況の報告、外部評価の結果の公表をしている。出席者から意見や要望を聴き、サービスの向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	時間が作れず現在は行っていない。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員全体には理解されていない。	○	会議の時間を使って研修会をしていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修に参加したり、ホーム内で資料を基に学んだりしている、どのようなことが虐待になるのかを理解し、ホーム内で虐待が起こらないようにしている。職員のストレスや荷重勤務も引き金になると思われるので、悩みを抱え込まないような職場の雰囲気作りをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはできるだけしっかりと説明を行うように努めている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族を通して少しはあると思うが充分ではないと思う。	○	介護相談員の受入を検討していきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康状態についてはその都度連絡している。日常のようすや変化については毎月一ホーム便りや担当職員による一筆線で報告している。それ以外でも面会時には家族と気軽に話し合える雰囲気を作るようにし、何でもはなしやすい関係づくりをしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の相談窓口の説明やポスターの掲示、ポストを設置している。	○	積極的に苦情、要望を訊くアンケート等検討する。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回会議をしている、その中で様々な意見を聞くようにしているが、運営者の出席していない為、反映されることはむずかしい状況である。	○	運営者にも会議に出席してもらえるように提案していきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	カンファレンスで話し合い、できる限り柔軟に対応できるよう努めている。	○	職員の不足から充分にはできていない現状である、職員の補充を図りたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員がよい環境で、楽しく働けるような雰囲気作りを心がけているが、完全に防ぐことはできない。	○	職員の気持ちや悩みを聞く機会を設けたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望者には資格取得の授業料を助成し、資格取得を奨励している。今後とも、プロとしてより高度の専門知識を習得させ、資格の取得を目指させるため、出来る限りのフォローをしたい。	○	今後もひき引き続き資格取得の助成をしていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護労働安定センターの行事に参加することで、交流を図り、サービスの質の向上等に取り組みたい。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	忘年会、新年会、歓送迎会等職員の親睦を兼ねて行っている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	毎月のリーダー会での話し合いを通じて職員の状況を把握している。	○	今後は人事考課表を採用し、より公平性、客観性を高めていきたい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前の面談から傾聴の姿勢をしっかり示し、安心感を持ってもらえるよう努めている。入居後もその姿勢は一貫して示し、よりよい関係づくりをしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居者のみにとどまらず、家族の不安や家庭環境をも踏まえて相手の立場に立って考えることを心がけている。なんでも相談出来るよう面会時には話しかけやすい雰囲気を作るようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ほかの相談機関とも日頃から交流し、利用者や家族にとって一番よいサービスがうけられるように情報や知識を得ておくように努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の状態や能力のアセスメントを十分に行い、出来るだけ今までの環境に近づける努力をする、また優しく、温かいケアを心がけできるだけ早く新しい環境に馴染めるように心がけている。寂しい思いをさせないよう家族の協力を得て、面会にもなるべく頻回にきてもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事や買い物を一緒にすることで介護する側、される側という関係ではなく、職員と入居者が協力し合う関係であるように努力している。また人生の先輩としての入居者からたくさん学ぶこともある。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族もホームの行事や活動の協力してくれる。外出や会議などにも協力的に参加している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前にはあまり関係がよくなかった場合でも、少し距離をおくことによってお互いに冷静に見つめることが出来、関係が修復されることが多い、職員は関係が良くなるようにそっと支援している。夫が妻の居室に宿泊されている方もいる。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの行きつけの美容院へ入所後も引き続いていったり、幼馴染の訪問を家族の了解を取って図ったりしている。行きたいと言うところへは出来る限り早急に行けるようにしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	出来る範囲で入居者同士が助け合えるようにしている。車椅子の人を歩ける人が押して散歩にいたり、一緒に買い物に行ったり、仲間意識を持ってもらえるように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	体調が悪化し、入院（老人病院）した入居者のところへみんな花を持ってお見舞いに行ったり、他の施設へ移った利用者に面会にいったりしている。家族からも退所後も年賀状や手紙をいただいたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の働きかけをするときに指示的な言葉かけはしないようにつとめている。いくつかの選択肢から選んでもらうようにしたり、本人のその時の気分を大切にするようにしている。職員の感じとったり、自己決定できるような働きかけをしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の関係機関や家族等からの情報の聞き取りやセンター方式シートを出来る限り使用し、一人ひとりの生活歴や思いを大切にしよう心がけている、またカンファレンスを利用し職員みんながその情報を共有できるようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その人の生活のリズムやその時々体調の変化を見逃さないようにつとめている。いつもとなんか違うと感る観察力を養えるように勉強会をしたりしている。毎日のバイタルサインのチェックや食事や水分摂取の状況、排泄の状況、体重の変動をチェックしている。	○	職員全員が観察力を養えるよう今後も研修への参加や勉強会を計画していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員はカンファレンスを利用して情報の共有化したり、意見交換をして計画を作成している。本人の希望や家族の要望もある程度盛り込んでいるがまだ職員主導の傾向が強い。	○	本人、家族との話し合いの時間を確保して介護計画に反映させていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態が変化した場合には即座に計画の見直しをし計画の変更をしているが、本人や家族への説明があとになってしまうことがある。	○	本人、家族との話し合いの時間を確保して介護計画に反映させていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、業務日報、申し送り、カンファレンスで、日々のケアの実践で気づいたことなどを話し合ったり、日常的に職員が意見を言い合ったり、介護計画に盛り込んでいる。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	遠くにお住まいの家族に替わって体調を崩して入院された時や受診などは出来る限りの協力体制をとっている。妻が入居し、一人暮らしを余儀なくされた夫が妻と同室に止まったり、その方へ食事を提供(有料)している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	現在はその必要性のある入居者がいないため、行っていない。	○	そのような必要性のある入居者がある場合には関係機関と協力しながら支援していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在はその必要性のある入居者がいないため、行っていない。	○	そのような必要性のある入居者がある場合には関係機関と協力しながら支援していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護の必要性があるのではと思われる入居者がいるが、現在は何もしていない状況である。	○	早急に地域包括支援センターと協働していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時のかかりつけ医の選択に際しては家族と十分に話し合い、納得の上で決めている。すべてのかかりつけ医との関係を築いてはいない。	○	直接職員がかかわらない医院もあるが、今後は連絡ノート等を利用して関係を築いていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医の受診、相談にのってもらえる医師がいる。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護職であり、常勤でいる。入居者全体を把握している。日常の健康管理、発病時や怪我のときなど気軽に相談できるので安心してケアができる。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院から退院まで継続して病院関係者との情報交換や相談につとめている。家族だけでは困難な場合は洗濯や一時的な付き添いなど協力体制をとっている。また退院に向けてスムーズに元の環境に馴染めるように定期的に外出を計画している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	病状が変化した時にはその都度話し合いの機会を作っている。かかりつけ医の意見や対応が可能とおもわれるホームでの終末期の迎え方について家族と話し合っている。またそれらを会議を通して職員全体に報告している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホームでは本人の意思や家族の希望により、本人の身体的状況が可能と思われる場合はホームでの終末期ケアをおこなう方針である、ホームの医院も協力を得られる状況であるが事業所として「できること、できないこと」を明文化もしたものは現在ない。	○	かかりつけ医と相談し、検討準備していきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族や本人の了解を得て、入居前から入居後の生活の全般や本人の今後に役立つであろう情報を提供している。本人の立場に立って考える姿勢をいつも持っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○	すべての職員がそのようなかわりが出来るようにしていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿意の訴えのない方でも排尿のパターンをつかむよう努力し、出来るだけトイレまたはPTイレで排泄できるようにケアしている。	○	下剤に頼ることなく。自然に排便があるように生活習慣や食事の内容を検討していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できるようにしている。時間も本人の希望をきいている。夜でないと落ち着いて入浴できない方には寝る前に入浴してもらっている。あまり遅い時間は夜勤者だけになってしまうため出来ない。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	眠りに入りやすい環境、室温、明るさ、騒音への配慮をしている。入眠前に興奮させたりせず、穏やかな気持ちで過ごせる雰囲気作りを心がけている。夜勤者もばたばたすることなくゆったりとした雰囲気がかかわるようにこころがけている。電気をつけたままの方が安心して眠れる人には希望に沿ってそうしている。	○	すべての職員がそのようなかわりが出来るようにしていきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	将棋や麻雀、読書、おしゃべりなど楽しい時間を過ごせるように配慮している。	○	寒い時期は活動が少なくなり勝ちである。室内で出来る活動を増やしていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かけるときに財布を渡して自分で買い物をする人やすべてを管理している人もいてそれぞれの能力に応じている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、ドライブや好きな読書が楽しめるように図書館に行ったり、釣りを計画したり、墓参りにいったり、要望には出来るだけ沿うようにしている。フロア一単位で外出計画を立て実施している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年1回ホームでバス旅行を計画している。家族にも声をかけ一緒に行けるようにしている。今年度は掛川花鳥園、昨年度は浜名湖ガーデンパーク、初年度は本栖湖へ紅葉狩りにいきました。	○	今後は一人ひとりの希望を聞いて個別の計画も立てていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望時に対応。年賀状や暑中見舞いを家族に出している。元の同僚、友人から電話が掛かってきたりしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会は自由にしてもらっている。訪問時には職員も気持ちよく挨拶し、フロアで又は居室で過ごしてもらっている。食事を一緒に食べていただくといい事もある。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の弊害を学習し、カンファレンス等で拘束しないケアをみんなで模索しながらケアに取り組んでいる。拘束廃止への意識付けのためにも研修には出来るだけ多くの職員に参加させている。身体拘束と思わずにしている場合もあるので何が身体拘束になるのか喪カンファレンスで勉強している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関には鍵が掛かっていないが、各フロアの入口には電子錠がかかっている。事務所を玄関脇に移動し開錠に移行したいとかがえているが、交通の激しい道路にホームが接しているためなかなか開錠に踏み切れないでいる。	○	昼間の短時間から始めていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間の時間毎の巡視、転倒の危険のあるかたへは離床センサーの利用、昼間は見守り、介助の必要な方へは介助しできるだけ安全にせいかつできるようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	針、はさみ、ナイフなどホームであずかつてはいるがいつでも使えるように配慮している。返却を確認している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	研修に行ったり、勉強会を開催したり、事故防止には気をつけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	AEDの使い方や心肺蘇生法の救急講習会(消防署)を年2回受け全職員が対応できるように訓練している。	○	今後も続けて受講していく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夏祭り、手芸教室、蕎麦打ちなどを通して地域の人々と交流をはかっている。また運営推進会議などで地域の協力が得られるように働きかけている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	状態が変化してきた場合には出来るだけ早期に話し合いの時間を持つようにしている。その時々で家族の要望にも聴いている。必要に応じて主治医も交えて説明をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々のバイタルサインチェック、異常時の早期の報告と対応、申し送りや業務日誌、カンファレンスによる情報の共有につとめている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居時や薬が変わった時には説明しているが、すべての職員が100%周知しているわけではない。	○	薬剤師さんから薬の薬効、副作用、用法や用量についての勉強会をしていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の原因や弊害など折にふれて説明している。予防の為に食生活や運動、便秘が体調や、不穏を招く一因であることも周知されてきている。ヨーグルトや納豆、バナナ、芋類と入居者の好みも考えながらあげている。下剤の使用に頼り過ぎないように注意している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自分で出来ない人には介助で行っている。出来ている人のチェックも必要であるが現在はできていない。	○	歯科医師による定期的な口腔チェックをしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士さんによる献立の作成している。一人ひとりの食事量の観察と記録、食欲不振の続く時には主治医に相談したり、好きな食べ物を用意したりしている。水分量についても1000から1500mL（水分制限のある場合は考慮）摂取するように努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染対策マニュアルを作成し予防に心がけている。外来者もウエルパスやマスクで感染予防をしている。嘔吐物や排泄物の処理の仕方にも注意している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	厨房の清潔、食器調理器具の熱処理をしている。布巾は毎日塩素系漂白剤で除菌、食材はあまり買いだめしないようにしている。食べ残しはその日の内に食べきるようにして残ったら処分している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには花を飾ったり、オープンになっており自由に入られるようになっている。外で外気浴をしていると散歩している人達が気軽に声をかけてこられる。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾りや絵、ポスター、時計等がかざってある。ソファでくつろぐこともできる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	完全に一人になれるスペースは居室のみであるが、居間のソファがお気に入りのスペースになっている人は多い。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみのものや好きな写真、以前描いた絵、使い慣れた筆筒などを家族の協力のもとで用意している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日時間を決め換気している。その時々で調節している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下の手すりやトイレの手すり、浴室や浴槽の出入りのためのバーを取り付けている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	みやすいカレンダーをかけたり、時計を設置している。声かけも時間や日にちが分かるように話しかけている。トイレの場所がわかり易いように張り紙をしたり、昼間でも電気をつけてドアを開けておくなど工夫している。居室の廊下にも色のついた椅子を置くなどして居室がわかり易いようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	敷地内に菜園や花壇があり、洗濯物干し場は広くあり、一緒に布団をほしたり、洗濯物を干したり出来る。玄関の外にはベンチをおいていつでも外気浴が出来る。季節の良いときには玄関先でバーベキューをしたりしている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

自己評価票(アウトカム項目)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

季節ごとの行事、地域との交流の夏祭り、手芸教室、蕎麦打ち教室